

HTLV-1 母子感染予防に関する研修事業の改善の方策にかかる提言の検討

内丸 薫 昭和医科大学 客員教授

研究要旨:昨年度末に開催したHTLV-1母子感染予防に関する全国研修会の参加動向、参加者の意向の調査を行った。現地参加者3名、ライブ配信視聴参加が168名、オンデマンド動画視聴参加が259名であった。開催形式については現地開催とライブ配信のハイブリッドを望む意見が最多であったが、実際に現地参加者はわずかで、オンライン配信が望ましいと考えられる。オンデマンド視聴への要望は強いが、配信期間などに検討の余地があると思われた。

A.研究目的

2011年から開始されたHTLV-1総合対策において、推進体制として都道府県にはHTLV-1母子感染対策協議会が設置されることとされている。大半の都道府県に母子感染対策協議会が設置され、地域の実情に合わせて研修会などを実施している都道府県も多いが、その活動には温度差もあり、全国的な標準的な研修会を開催することで、全国の行政担当部署、周産期領域医療関係者に基本的な情報を提供することが可能となる。そのための研修事業としてどのような開催形式が有効であるかを検討することを目的とする。

B.研究方法

研究班内で標準研修の在り方についての検討を行い、モデルケースとしての標準的な研修会を開催し、その参加状況、参加者の属性、望ましい研修会の形態などについてのデータを取り、今後のHTLV-1母子感染予防に関する研修事業の改善の方策に関わる提言を検討することとした。標準研修会の開催の形態としては1) 対面型 2) オンライン型 およびそのハイブリッドが、またオンラインの期間の設定として1) リアルタイム型 2) オンデマンド型 などが考えられた。対面型はライブ感があり、またその場で直接質疑応答、意見交換ができるところが大きな利点であるが、全国研修とした場合の現地参加の時間的、費用的な制約が出てくることから、広く研修参加者を募るためにオンラインとのハイブリッド開催形式が望ましく、参加者の業務上の都合などを勘案すると、オンラインについては、リアルタイムのみではなく、録画のオンデマンド配信が望ましいが、研修会として位置付けるために一定の期間限定型とすることとした。2025年3月8日に第1回のHTLV-1母子感染予防に関する全国研修会を東京都品川区で開催した(資料1)。現地会場参加の他、オンラインによる参加も可能とした。また、研修会終了後、約1か月オンデマンドで録画を視聴できるように、HTLV-1情報ポータルに録画を

アップロードすることとした。申し込みは各形態の参加ともウェブによる事前申し込み制として、登録時に施設名、医師・助産師・行政担当者など役職も入力するシステムとして、どの地域のどのような属性の担当者が、どのような形態で研修に参加したかの情報を取り、解析を実施することとした。開催にあたり、こども家庭庁からの事務連絡により都道府県母子保健主管部に周知、また全国461か所の保健所、保健センターに郵送により案内状を送付した。広く周産期領域の関係者に周知するため、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、東京産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会、日本助産学会、日本助産師会の各学会、学術団体から後援をえて、各学会のホームページで開催の周知を図った。また、HTLV-1情報ポータルによる開催周知も行った。会終了後に参加者の集計、参加形態、参加者の属性などの解析を行った。

（倫理面への配慮）

本分担研究については特になし。研修会への申し込み用ウェブサイトの構築にあたっては、特に情報セキュリティに配慮し、実績のある企業と業務委託個別契約書、および個人情報取り扱い覚書を取り交わしたうえで業務委託を行った。

C.研究結果

開催当日、会場での参加者は演者を除いて6名で、うち3名は研究班班員であったので、実質的には3名であった。ライブ配信には168名の登録があり、そのうち実際に視聴したのは96名であった。講演会終了後3月17日から4月30日まで期間限定でオンデマンド配信を実施したが、視聴者数259名、総再生回数は323回であった。オンデマンド配信終了後、参加者の解析を実施した（資料2）。参加者の属性については、オンデマンド配信の視聴者の分析では、地域的には関東27.0%、中部東海14.8%、近畿23.0%と大都市圏を含む地域で半数を超え、九州・沖縄地区は11.1%であった。所属・職種では助産師が77.0%と圧倒的多数を占め、医師が6.7%、看護師（助産師除く）が3.0%であった。また保健センター・保健所が11.9%、都道府県母子保健担当者が1.5%で行政関係からも一定の参加があった。今後の研修会の形式については現地開催とのハイブリッドがよいと回答したのが82.5%、オンラインのみがよいと回答したのが14.8%であった。オンデマンド配信については全員が今後とも継続が望ましいと回答していた。

D.考察

今回の全国研修会には現地参加、ライブ配信、オンデマンド視聴合わせてのべ430名の参加があり、HTLV-1母子感染予防に関する研修会に対して一定のニーズがあることが改めて明らかになった。コロナ禍を経て急速にウェブ配信、オンライン会議などが普及する中、各種学会では改めて対面で開催することの意義が再認識され、現地開催とのハイブリッド開催も増加しているところであるが、参加者アンケートではハイブリッド開催がよいと回答した人数が圧倒的に多かったものの、実際に現地参加したのはごくわずかであり、今後の研修会の開催形式としてはオンライン配信が望まれる形態であると考えられる。また、オンデマン

ド配信については希望が非常に強く、実際参加者の参加形態で最も多かったのはオンデマンド視聴であった。一方、特に期間を設けずにオンデマンド配信とすると、いつでも視聴できることからいつまでも視聴しないという事態も懸念される。今回の研修会の調査からは、今後オンライン配信＋期間を設定したオンデマンド配信というのが望まれる研修形態であろうと考えられた。期間を設定したオンデマンド配信のみとするという考え方もあると思うが、（オンライン）研修会という企画自体が改めて HTLV-1 母子感染予防対策の必要性を周知する機会にもなると思われ、今後の研修会の在り方として提言したい。

E. 結論

HTLV-1 母子感染予防対策についての研修会を開催し、今後の研修の在り方について検討を行った。オンライン配信＋期間設定型のオンデマンド配信が今後の研修の形態として望まれると考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

本研究に関連しては特になし

2. 学会発表

本研究に関連しては特になし

3. 講演会・シンポジウム

- 1) 長崎県 HTLV-1 母子感染防止に関する講演会 2026.2.11. 長崎市
- 2) 北海道 HTLV 1 母子感染予防対策研修会 2026.2.14 札幌市

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

資料1

HTLV-1

母子感染予防に 関する全国研修会

現地参加
先着
80名様
まで

参加登録は
こちら



日時

令和7年

3月8日(土) 13:00
15:00

開催
場所

TKP品川カンファレンスセンター
東京都港区高輪3-25-23 京急第2ビル
(JR、京急品川駅 徒歩3分)

開催
形式

現地会場およびZoomによるライブ配信を
用いたハイブリッド開催となります。
いずれも事前登録をお願いします。

開催1週間後から2週間オンデマンド配信

事前参加登録用URL

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/htlv1R6/form/>

対象

医師、看護師、助産師、保健師、保健行政担当者

プログラム

開会挨拶

13:00 こども家庭科学研究事業 次世代育成基盤研究事業
13:05 HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究 研究代表者

内丸 薫

東京大学新領域創成科学研究科
メディカル情報生命専攻教授

HTLV-1、関連疾患の基礎

13:05
13:25 内丸 薫 | 東京大学新領域創成科学研究科
メディカル情報生命専攻教授

母子感染予防対策の動向

13:25 ー 総合対策開始から、2017年のマニュアル改訂、
今回の改訂までの動向について

13:35

板橋 家頭夫

愛正会記念
茨城医療福祉センター長

改訂版母子感染予防対策マニュアルについて

13:35
13:50 宮沢 篤生 | 昭和大学小児科准教授

産婦人科診療ガイドラインにおけるHTLV-1

13:50
14:05 三浦 清徳 | 長崎大学産婦人科教授

助産師による 意思決定・授乳支援

14:05
14:35 井村 真澄 | 日本赤十字看護大学大学院
国際保健助産学特任教授

総合討論

14:35
15:00

主催

こども家庭科学研究事業 次世代育成基盤研究事業
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究
(研究代表者 内丸 薫)

後援

日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、東京産婦人科医会、
日本周産期・新生児医学会、日本助産学会、日本助産師会



HTLV-1母子感染予防に関する 全国研修会

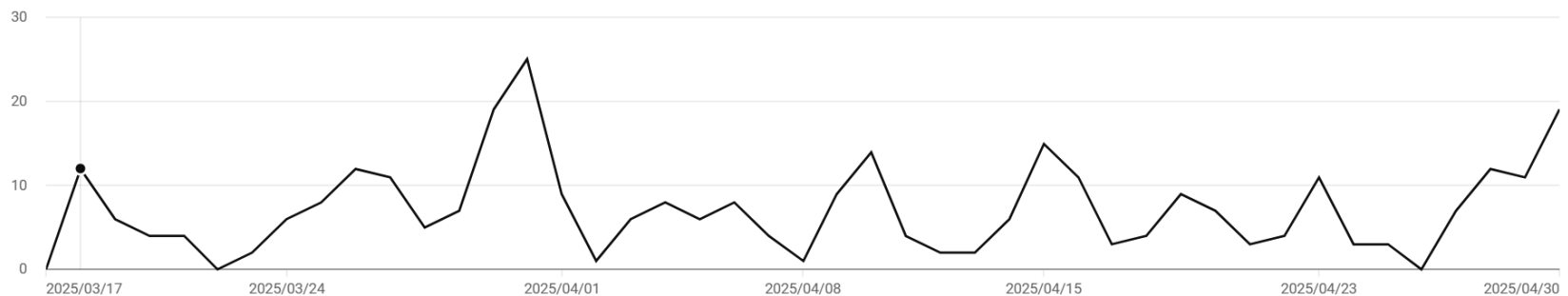
-2025年3月17日～4月30日-

動画視聴・アンケート 分析レポート

動画視聴分析①

-YouTube アナリティクスより-

総再生回数	323回	動画が再生された合計回数です。同じ視聴者が複数回視聴した場合も、その都度カウントされます。
ユニーク視聴者数	259名	動画を視聴した異なる視聴者の数です。同じ視聴者が何回視聴しても、1人としてカウントされます。
総再生時間	175.5時間	すべての再生回数を合計した総視聴時間です。動画の視聴ボリュームや関心度を示す指標として使用します。
平均視聴時間	32分	1回の再生あたりの平均視聴時間です。

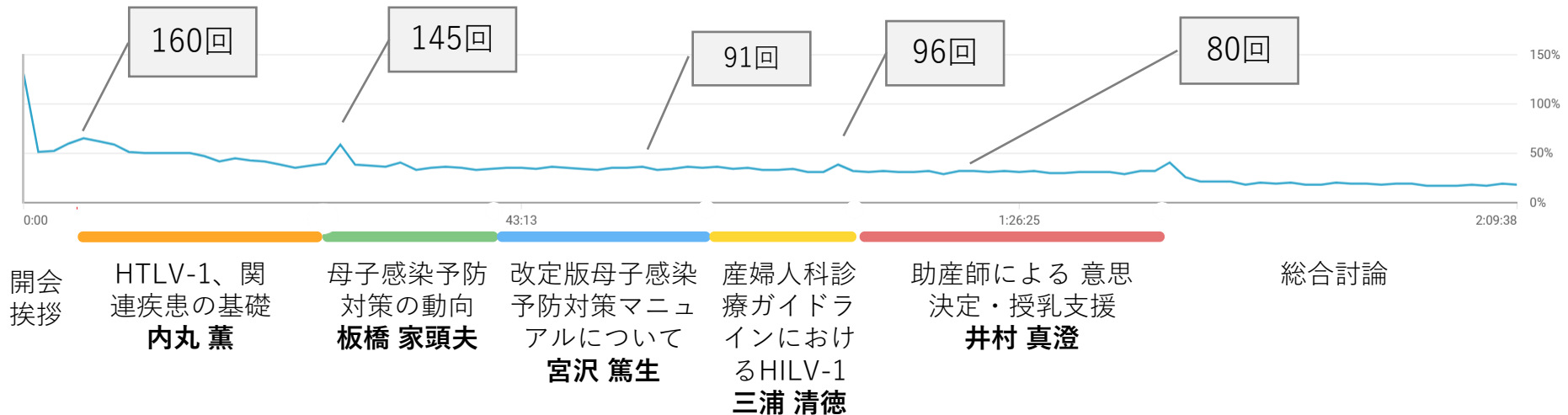


配信期間中の視聴回数の推移

動画視聴分析②

-YouTube アナリティクスより-

各セッション視聴者維持率最高時点の視聴回数推定値



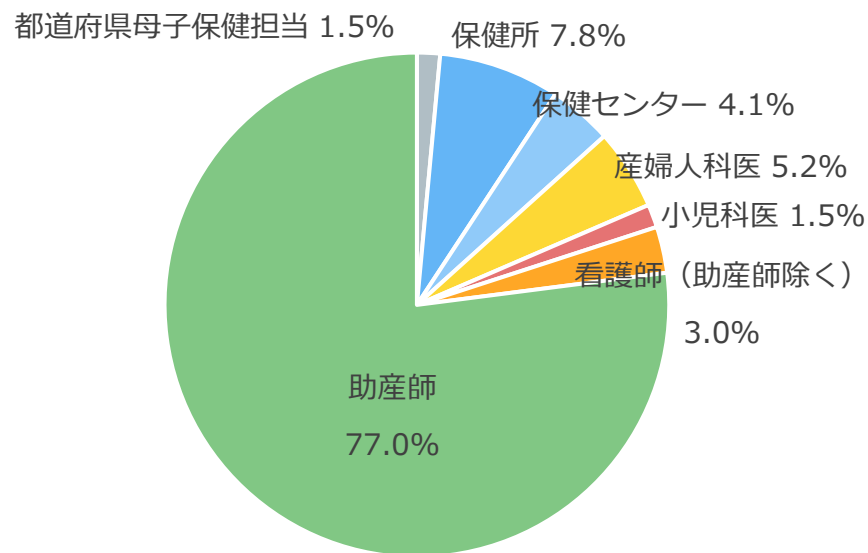
※視聴者維持率は、再生開始時点基準に各時点の視聴状況を示す指標です。
ここでは、総再生回数（323回）を「開始直後（維持率ピーク時）」の再生回数とみなし、
次の計算式で各時点の再生回数を推定しています。

各時点の再生回数 ≈ 総再生回数 × （その時点の維持率 ÷ 開始直後の維持率）

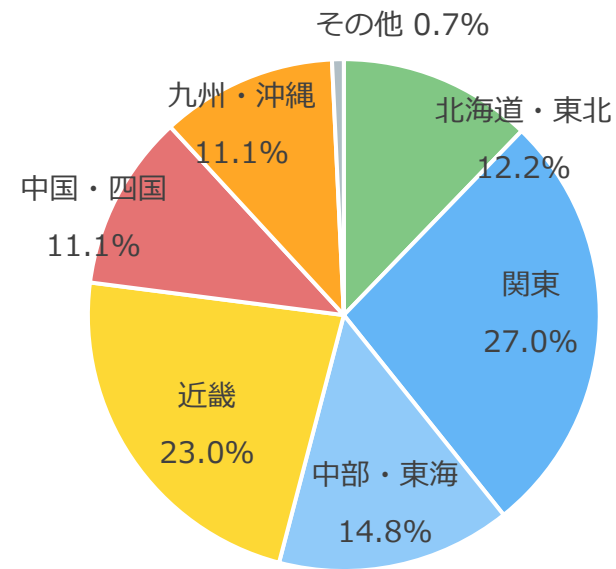
視聴前アンケート

視聴回数1回目の回答者270名

回答者の所属・職種 (n=270)



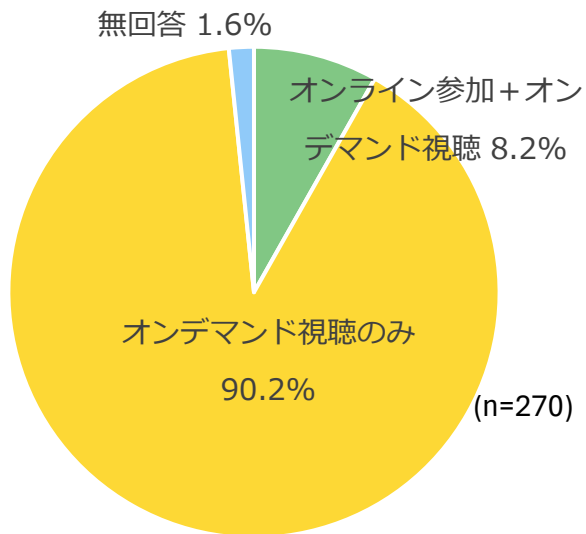
回答者の地域 (n=270)



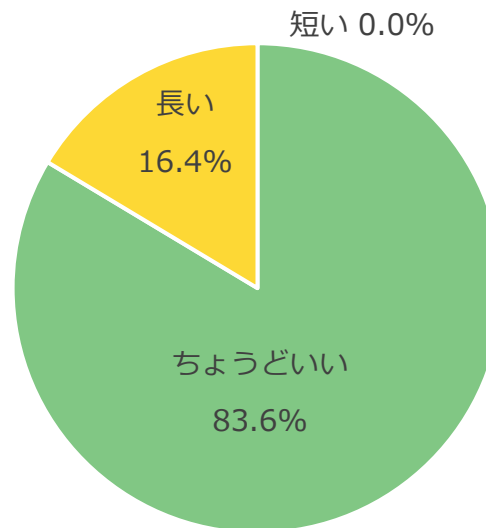
視聴後アンケート①

回答者61名

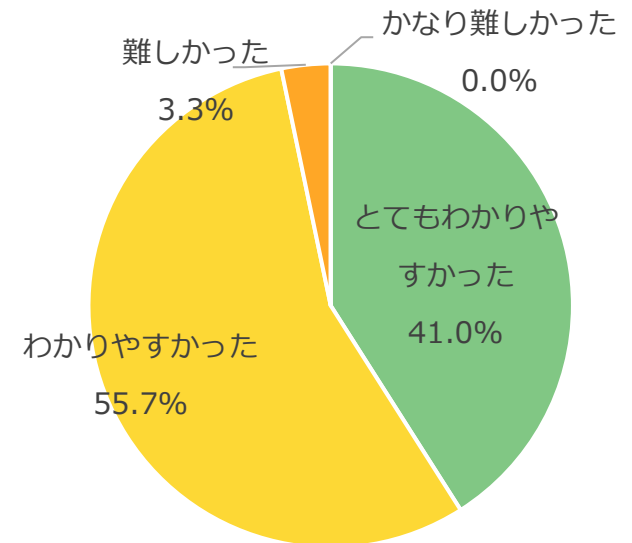
全国研修会参加方法 (n=61)



プログラムの時間の長さ (n=61)



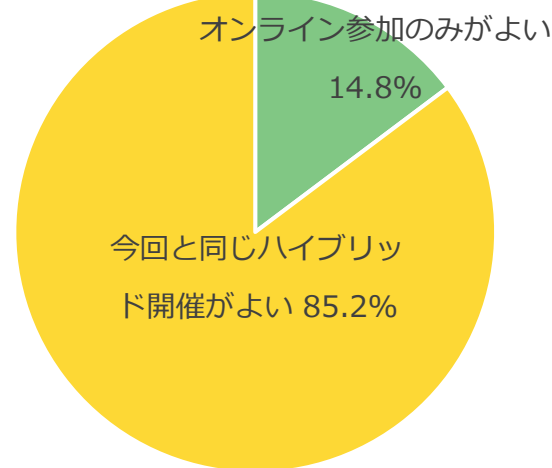
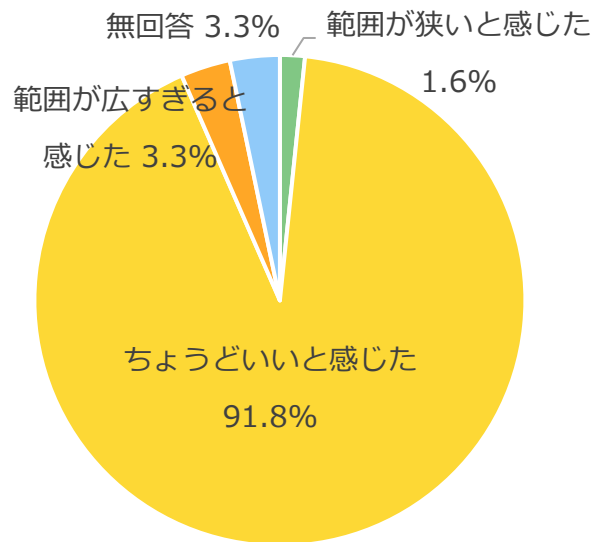
研修内容のわかりやすさ (n=61)



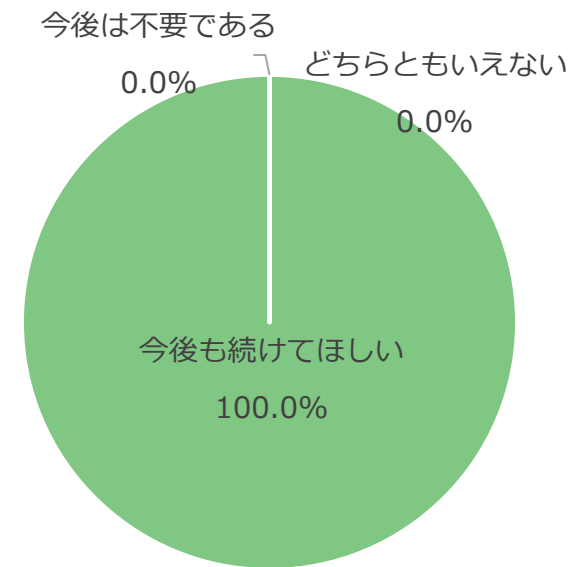
視聴後アンケート②

回答者61名

研修内容の範囲 (n=61) 今後の研修会について希望する形式 (n=61)



オンデマンド配信について (n=61)



視聴後アンケート③

自由記述

2時間の中で講義ごとに細かく分かれている方が見やすいと思いました。

HTLについての理解が深まった。

このように母子感染を予防するための普及啓発は繰り返し行ってほしい。

研究データ等が出て、日々アップデートされていますので、最新の情報を得て臨床実践に活かせるようにしたいと思います。ありがとうございました。

現況が各分野からでて参考になりました 進行の仕方、先生！気持ちよかったです

助産師として、今後キャリア妊婦さんの対応、短期授乳の乳房の管理など具体的に講演していただいて、とても勉強になりました。

大変勉強になり、有意義でした。ありがとうございました。少し講師の先生の声が聞きづらいところがあり、残念でした。

大変勉強になりました。確かに母乳の利点はあるのですが、確率は僅かですが発症した場合の状況を周知することが重要と思いました。ありがとうございました。

知識のアップデートができ受講できて良かったです。

地域で働く助産師です。今回、初めてこのようなHTLV-1専門的研修会をオンデマンド視聴させていただき、たいへん勉強になりました。30年以上前にいた臨床の場でもキャリア妊婦さんは年にひとりいたかなと思い出すのも難しいほどで、知識もまったく上書きされないままでした。今回、医学的な知識に加えて、助産師の立場で具体的なケアについても聞けて、理解が深まりました。マニュアルについてもアクセスしやすくなっており、とてもありがたいです。ありがとうございました。

臨床ではあまり多くはないのですが、短期授乳を選択した場合のフォローについて、理解を深めることができました。助産師として母子感染を防ぐためにも、きちんと90日未満で短期授乳を終えることができるような意思決定と授乳支援を行っていきたいと思いました。